

鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価について（平成 26 年度）

平成 26 年 12 月 8 日
鳥取県衛生環境研究所

鳥取県衛生環境研究所では、県政の重要課題や県民ニーズを踏まえた研究活動の活性化を促進し、優れた研究成果を上げるため、平成 16 年度から当県の組織の外部の有識者、専門家による外部評価制度を導入しています。

平成 26 年度は、平成 26 年度から新たに実施しようとする研究課題についての事前評価、平成 25 年度時点で研究途中の研究課題についての中間評価、平成 25 年度で終了した研究課題についての事後評価を行いました。その結果は以下のとおりです。

1 評価方法及び評価項目

評価は、研究課題ごとの計画書又は報告書に基づいて、次の区分で実施しました。

(1) 事前評価

ア 評価項目

- (ア) 研究課題の必要性、(イ) 研究の効果、(ウ) 研究計画・研究方法、(エ) 研究予算
- (オ) 総合評価

イ 対象課題：平成 26 年度に新規に実施しようとする全ての研究課題（5 課題）

(2) 中間評価

ア 評価項目

- (ア) 研究の実施状況、(イ) 研究の成果、(ウ) 研究の効果、(エ) 標達成の可能性
- (オ) 総合評価

イ 対象課題：3 年以上の研究期間を有するものについて必要に応じて実施（3 課題）

(3) 最終評価

ア 評価項目

- (ア) 目標の達成度、(イ) 研究の成果、(ウ) 研究の効果・成果の実用化
- (エ) 研究成果の発展性、(オ) 総合評価

イ 対象課題：平成 25 年度で研究期間が終了した全ての研究課題（4 課題）

2 評価者

評価者は、保健衛生又は環境に関する専門家で、かつ公正な立場で評価していただける学識経験者と、県民の代表として県民、住民団体、企業等の視点から評価していただける有識者から次のとおり選任しました。（順不同、敬称略）

氏名	所属・役職	備考
加古 大成	鳥取短期大学生生活科学科助教	新任
早乙女 梢	鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター准教授	新任
増田 貴則	鳥取大学大学院工学研究科准教授	再任
横山 伸也	鳥取環境大学環境学部教授	新任
石田 節子	特定非営利活動法人コンシューマーズサポート鳥取理事	新任
福田 忠明	太陽エネルギー学校 代表、鳥取県地球温暖化防止活動推進員	新任
三津国 美枝子	前湯梨浜町商工会女性部長、湯梨浜町民ミュージカル実行委員	再任

3 評価の実施日

平成 26 年 9 月 16 日

4 評価結果及び対応

(1) 事前評価

評価対象の 5 課題の評価結果は、別紙 1 - 1 のとおりでした。

ア 「評価点」について

評価対象 5 課題の評価点の合計は、20 点満点中 15.7 から 17 点（平均 16.2 点）でした。

イ 「総合評価」と今後の対応について

全 5 課題について、「実施すべきもの」と評価されました。

今後は、各評価者の所見、指摘事項等を踏まえて、研究計画をさらに精査した後、来年度の事業化に向かいます。

(2) 中間評価

評価対象の 3 課題の評価結果は、別紙 1 - 2 のとおりでした。

「総合評価」と今後の対応について

対象の課題のうち、大気・地球環境室の「越境大気汚染（光化学オキシダント）の植物への影響に関する基礎的調査研究」について「委員の意見等を反映して継続すべきものとする」と評価されました。これについては、研究の手法に意見を反映しています。（別紙 2 - 6 「総合評価票」のとおり）

2 課題について「継続すべきもの」と評価されました。

引き続き、各評価者の意見等を踏まえ、目標達成に努めます。

(3) 事後評価

評価対象の 4 課題の評価結果は、別紙 1 - 3 のとおりでした。

「総合評価」と今後の対応について

全 5 課題すべて、「優れた研究成果である」と評価されました。

評価項目全般について、評価者の意見を踏まえ、背景や理由等を検証し今後の研究課題の設定や進捗管理に活かします。

(4) 全般的事項

評価者から調査研究の実施に際しての留意点や着眼点等の助言をいただきました。

事前評価及び中間評価の対象課題については、新たな研究課題の実施及び実施中の課題の継続の必要性や重要性について認めていただき、全般的に評価者からは前向きな評価を多くいただきました。

しかし、より具体的な研究計画や予算額、関係機関との連携等、検討すべき事項があるとの指摘を受けた課題もあり、評価者からいただいた意見等を踏まえ、見直しを図っていく予定です。